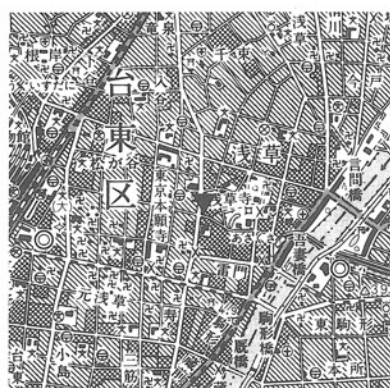


東京・台東区No.68遺跡



(東京東北部)

- 1 所在地 東京都台東区浅草一丁目
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14) 八月
- 3 発掘機関 台東区文化財調査会
- 4 調査担当者 小俣 悟
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

台東区No.68遺跡は台東区の東側、区境である隅田川の西岸微高地の西方に位置し、東京低地西側に立地する。J・R常磐新線(仮称)

新浅草駅出入口建設に伴う調査である。当地周辺は近世以前は湿地が広がっていたものと思われ、近世には浅草寺境内であり、嘉永三年(一八五〇) 近江屋板「下谷浅草箕輪山谷辺図」では「火除地」あるいは「田地」とある。

主要な遺構確認面が三面あり、検出遺構は建物基礎・井戸・溝状遺構・土坑などである。特徴的な遺構として大型の長方形土坑群が見られる。また最下層には牡蠣殻の堆積層が確認されている。大型の長方形土坑は牡蠣殻層から牡蠣を採取した遺構とも推定される。

木簡は大型の長方形土坑(第三八号遺構) から出土した。この土坑の推定廃棄年代は一九世紀第Ⅲ四半期である。なお、その遺構群の中を抜ける溝状遺構(第一九号遺構) からは、焼印のある桶蓋(径一一〇mm厚一〇mm) が出土した。桶蓋に栓孔があることから液体の容器と思われる、焼印はその商標と推測されるが、「〇」の中の文字は釈読できない。第一九号遺構の推定廃棄年代は一九世紀第Ⅲ四半期である。他に貝殻(ハマグリの内面) などに墨書のあるものが見られる。

出土遺物は独楽・魚籠などの木・竹製品のほか、多量の近世・近代陶磁器などである。また特徴的な遺物では台東区内の土器焼きとして著名な今戸焼関係の刻印を有する焜炉などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「鳶
□吉人」

30×60×5 011

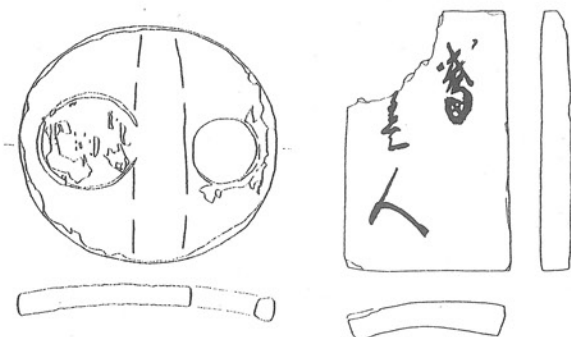
小型の板材で、裏側が二次焼成によりかなり炭化している。左上を大きく欠損しており、その部分に一字あった可能性がある。内容

は鷹の人数が番号などを示唆すると思われるが、確証はない。何らかの札と推測されるが、丸く反っており違和感がある。またミニチュアの桶とも思われるが、厚さが一様ではなく他の部材もみられず判断し難い。

9 関係文献

台東区文化財調査会『台東区No.68遺跡』(二〇〇四年)

(小俣 悟)



焼印のある桶蓋

(1)

木簡研究 第二〇号

巻頭言—機器の目・人の眼—

和田 萃

一九九七年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡(1) 平城京跡(2) 青野遺跡 藤原宮跡 酒船石遺跡 長岡宮跡 長岡京跡左京二条四坊三町 長岡京跡右京六条二坊六町 平安京跡右京三条一坊三町 平等院庭園 細工谷遺跡 大坂城跡 天満本願寺跡 堺環濠都市遺跡 東浅香山遺跡 猪名庄遺跡 屋敷町遺跡 加都遺跡 明石城武家屋敷跡 境谷遺跡 茂利宮の西遺跡 安坂・城の堀遺跡 大將軍遺跡 大脇城跡 瀬名川遺跡 明治大学記念館前遺跡 千駄ヶ谷五丁目遺跡 山崎上ノ南遺跡B地点 西原遺跡 松本城三の丸跡小柳町 松本城下町跡伊勢町 三輪田遺跡 一本柳遺跡 志羅山遺跡 三条遺跡 上高田遺跡 山田遺跡 弘田柵跡 大光寺新城跡遺跡 福井城跡 金石本町遺跡 戸水大西遺跡 堅田B遺跡 七尾城下町遺跡 蛇喰A遺跡 二口五反田遺跡 清水堂F遺跡 下ノ西遺跡 中倉遺跡 大御堂廃寺 三田谷I遺跡 有福寺遺跡 高田遺跡 百間川米田遺跡 津寺遺跡 末原窯跡群(灰原上層) 萩城跡(外堀地区) 高松城跡 観音寺遺跡 上長野A遺跡 香椎B遺跡 博多遺跡群 魚屋町遺跡

一九七七年以前出土の木簡(二〇) 藤原宮跡

釈文の訂正と追加(一) 山垣遺跡 袴狭遺跡(深田地区) 袴狭遺跡 入佐川遺跡 出雲国庁跡

再び長屋王家木簡と皇親家令について

長野特別研究集会の記録

信濃の古代と屋代遺跡群:寺内隆夫、七世紀の屋代木簡:傳田伊史、七世紀の地方木簡:鐘江宏之、七世紀の宮都木簡:鶴見泰寿、律令制の成立と木簡—七世紀の木簡をめぐって—:館野和己

書評 佐藤信著『日本古代の宮都と木簡』 仁藤敦史

新刊紹介 大庭脩編著『木簡—古代からのメッセージ—』 丸山裕美子

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円